

東京港の第六台場で繁殖するダイサギ *Egretta alba*金井 裕¹

1990年の繁殖期に、東京港の第六台場でサギ類のコロニーを調べる機会を得た。第六台場は1853年より1855年にかけて江戸防備のためにつくられた砲台のひとつで、周囲は海により陸地と隔てられ、東京都により一般市民の上陸が禁止されている。第六台場はサギ類の東京港におけるきわめて少なくなった営巣地の1つである。サギ類は水辺を利用する代表的な鳥類であり、その生息状況は東京港の水辺環境の質を表す。簡単ではあるが他のサギ類コロニーと比較して、この点についても評価を試みた。

この調査を行なうにきっかけをつくっていただいた朝日新聞写真部の菅谷誠氏、松澤竜一氏と、調査に便宜を図っていただいた東京都南部公園緑地事務所管理系の皆様に感謝の意をここに表す。

調査地および調査方法

第六台場は港区の品川埠頭から東に600m、お台場海浜公園の第三台場から西に600mの東京港海上にある、一辺が約140mの正方形の人工の島である。周囲の堤上はアズマネザサ、カジイチゴ、クサギ、クロマツなどが生育し、堤内部の低地はエノキ、クサギ、クワなどの樹林となっている(図1)。

調査は、1990年5月29日9時より12時に実施した。生息するサギ類成鳥の種類と数、営巣数、営巣樹木、巣の高さ、ヒナ数を記録した。また6月21日に再び上陸して繁殖種類の確認を行ない、7月26日には第三台場より8時半より30分間は第六台場へのサギ類の出入りの観察を行なった。



図1. 第六台場の外観.

Fig. 1. The Dairokudaiba.

1990年11月15日受理

1. 財団法人野鳥の会研究センター. 〒150 渋谷区東2-24-5

結果

サギ類の営巣場所は南部の堤内側の約50m×30mであった。生息を確認した成鳥はダイサギ *Egretta alba* 39羽で、営巣数は39、この中の17巣でヒナを確認できた。ヒナ数は3羽が6巣、2羽が11巣で1巣あたりの平均は2.4羽、ヒナはふ化後1週間以上のものが3巣、他はふ化後2から3日のものであった。営巣木はすべてクワで、巣はその樹冠につくられ地上より3mから5mであった。

6月21日にはゴイサギ *Nycticorax nycticorax* 1羽の生息が確認されたが、営巣の確認はできなかった。7月26日は、ダイサギのみの出入りが観察された。

考察

第六台場のコロニーの特徴はダイサギのみで構成されることにある。千葉県内のサギ類コロニーの構成をみると、コサギ *Egretta garzetta* が最も多くダイサギは少ないのが普通である（日本野鳥の会千葉県支部 1981）。岡山県や山口県で調べられたコロニーにおいても同様の傾向が示されている（日本野鳥の会岡山県支部 1988, 日本野鳥の会山口県支部 1974, 1976, 1978, 1980）。コサギはダイサギよりも浅水域を採食場所として必要とするので、コロニーにコサギを欠くことは、東京港水辺の埋め立てや河川改修が進み、コサギの繁殖を可能とするだけの浅水域が存在しなくなっていることを示している。

第六台場の鳥類については、花輪他が1984年に調査を行なっている。この時にはダイサギのほかにコサギとゴイサギの繁殖も確認され、217の巣が台場全域に分散してつくられていたことが記録されている。営巣数は冬期に残っていた巣を数えたものなので、今回の記録と単純に比較するわけにはいかないが、繁殖種数、繁殖数ともに減少していることはいえる。1984年当時の東京港はすでに埋め立てが進み、海岸は海中から護岸が立ち上がっていたが埋め立て地の利用はまだ進んでいなかったため、池などが多く成立していた。現在は、これらの2次的水辺環境もなくなってきていることが、サギ類生息状況の悪化を引き起こしていると考えられる。

第六台場は、人間による攪乱を受けずにサギ類がコロニーをつくることのできる東京湾岸では数少ない場所の1つである。東京港のサギ類生息状況を保全するためには将来においても人間の立ち入りを禁止し、鳥類生息地として保全していくことが望まれる。しかし、営巣場所のみを保全しても採食場所がなくなれば生息は不可能となる。東京港には東京港野鳥公園や葛西海浜公園、中央海浜公園に水辺環境をもった保護区が設置されているが、サギ類のコロニーを維持していくには、そのほかにも海岸や河川の水辺に浅水域を確保し、採食環境を保全していく必要がある。

要約

1990年5月29日に東京港の人工島である第六台場で、サギ類の巣39とダイサギの成鳥39羽を記録した。コサギの営巣がみられないことは、東京港の水辺に浅水域が欠けている現状を示している。東京港周辺のサギ類生息状況を保全するためには、第六台場を引き続き立ち入り禁止とすることに加えて、サギ類の採食場所となる浅水域を保全する必要がある。

引用文献

- 花輪伸一、原田俊司、今西貞夫、1985、港区自然環境保全基礎調査 第Ⅱ編 野鳥生息調査、港区。
日本野鳥の会岡山県支部、1988、岡山県におけるサギ類の生息状況調査報告書、日本野鳥の会岡山県支部、岡山。

- 日本野鳥の会千葉県支部. 1981. 千葉県下におけるサギ類のコロニーおよび埴. 千葉県.
日本野鳥の会山口県支部. 1974. 山口県下における鳥類コロニー調査報告書. 山口県.
日本野鳥の会山口県支部. 1976. 山口県下における鳥類コロニー調査報告書 (第2回). 山口県.
日本野鳥の会山口県支部. 1978. 山口県下における鳥類コロニー調査報告書 (第3回). 山口県.
日本野鳥の会山口県支部. 1980. 山口県下における鳥類コロニー調査報告書 (第4回). 山口県.

A colony of Great Egrets *Egretta alba* in The Port of Tokyo

Yutaka Kanai¹

The Dairoku-daiba in the Port of Tokyo is a man-made small island. I visited the island to study an egret colony on 29 May 1990. There were 39 adult Great Egrets *Egretta alba* and 39 nests. The characteristic of this colony is the absence of the Little Egret *Egretta garzetta*, a principal species of egret colonies in Japan. This suggests that the shallow water suitable for foraging by Little Egrets is lacking from there and the neighboring areas.

1. Research Center, The Wild Bird Society of Japan. 2-24-5 Higashi, Shibuya-ku, Tokyo 150